

平成29年度 社会福祉法人緑仙会 事業報告

平成29年度は、4月、6月の評議員会及び理事会において、経営組織のガバナンスの強化などを目的とする社会福祉法人制度改革を受けた新たな経営体制をスタートさせた。

また、「利用者一人ひとりの尊厳と権利を守りながら、その主体性及び自己決定を尊重した支援を行い、すべての人々が安心して暮らせる地域社会の実現を目指します。」との経営理念の下、第3次中期経営計画（平成29年度～平成33年度）及び仙台市からの新たな指定管理期間（平成29年度～平成33年度）の初年度として、計画及び指定管理協定に基づき、障害福祉サービスを実施するとともに、地域における福祉課題や法人運営基盤の強化に取り組んだ。

1. 第3次中期経営計画平成29年度事業実施状況

(1) 中期経営計画の推進

第3次中期経営計画については、計画項目及び成果指標に基づき、管理者会議・支援係長会議で毎月の進捗状況を報告し、着実な事業推進に努めた。

また、第4回定時理事会において中期経営計画を改定し、実効性向上の観点から利用者数、収入等に関する成果指標について実績を踏まえて見直すとともに、目標達成に向けた具体策を「利用者数及び収入の増加に向けた行動計画」として策定した。

中期経営計画の成果指標に係る平成29年度の達成度は、資料「中期経営計画平成29年度進捗状況」のとおりとなった。

(2) 精神障害者支援の推進

①指定管理及び委託業務の確実な実施

仙台市から指定管理者の指定を受けたウインディ広瀬川、パルいずみ及びパル三居沢では、指定期間（平成29年度～平成33年度）の初年度であり、指定管理者としての役割を確実に果たすため、事業を実施した。仙台市から障害者相談支援事業を受託したほっとすぺーすとともに、地域生活への移行の推進、地域生活支援の充実及び就労支援の強化により、精神障害者支援を推進した。

②仙台市の障害者施策検討への参加

相談支援体制の充実については、ほっとすぺーすで「仙台市障害者自立支援協議会地域生活支援拠点等検討部会」委員に就任し、「青葉区障害者自立支援協議会」の企画運営を担うなど、障害者施策の推進に積極的に参画した。ウインディ広瀬川、パルいずみ及びパル三居沢では「区障害者自立支援協議会実務者ネットワーク会議」などに参加し、支援ネットワーク拡大に寄与した。

精神障害者の地域移行の推進については、ほっとすぺーすが仙台市精神保健福祉総合センター（はあとぼーと仙台）や他障害者相談支援事業所との協働により「地域移行推進連絡会」を開催し、課題の共有や検討を行った。

(3) 地域における公益的取組の推進

周辺地域の単身生活者に対する訪問支援については、ウインディ広瀬川が13件実施した。（中期経営計画目標：12件）

町内会との話し合いによる地域ニーズの把握については、上川内町内会（7月 ほっとすぺーす）、青葉山町内会（10月 ほっとすぺーす、2月 ほっとすぺーす・ウインディ広瀬川）と合計3回実施した。（中期経営計画目標：4回）

地域交流については、パル三居沢で八幡小学校 PTA 主催「八幡わくわくサマーフェスティバル」(7月)に、パルいずみで泉ヶ丘小学校 PTA 主催のバザー(9月)、ベガルタ仙台ホームゲーム(10月、11月)に、パル三居沢・パルいずみ合同で「東北福祉大学くにみ街道まつり」(10月)、ナイスハートバザール in せんだい(12月)に参加し、自主製品等の販売や事業所紹介を通じて障害者福祉への理解を図った。

啓発活動については、パルいずみが、「泉区家族教室」(9月)、「東北会病院家族会」(10月)で講話を行った。また、ほっとすぺーすでは、「青葉区家族教室」(2月)で講話を行ったほか、川内コミュニティセンターで精神障害者福祉の理解促進のための講演会を開催した。(中期経営計画目標：2回)

(4) 法人運営基盤の強化

①財務規律の強化

利用者数及び収入の増加を図るため、広報誌発行、ブログ更新等の広報活動のほか、関係機関訪問による事業紹介、自主製品販売会などを実施した。また、これまでの取組を検証しながら「利用者数及び収入の増加に向けた行動計画」を策定した。

年間を通じた障害福祉サービス費の給付費収入については、目標に対して、ウィンディ広瀬川、パル三居沢及びほっとすぺーすで9割台、パルいずみで約8割の達成度となった。

自主事業では、実習生の積極的な受入れを行い、地域の福祉専門職等の人材を育成する実習指導施設として各種教育機関と連携を図りながら、12校から延べ261名の実習生を受け入れた。

実習生の受入状況 (収入 783千円 中期経営計画目標：600千円)

実習種別	学校名	人数
精神保健福祉援助実習	東北文化学園大学	1名
	高崎福祉医療カレッジ	1名
	仙台白百合女子大学	7名
	東北福祉大学	15名
	日本医療大学	1名
精神看護学実習	東北大学	69名
	仙台青葉学院短期大学	55名
	徳洲看護専門学校	102名
介護等体験実習	宮城教育大学	5名
	宮城学院女子大学	2名
	東北大学	2名
	東北学院大学	1名
計		261名

②職員の人材育成

法人職員研修については、法人内の全体研修として年間計画通り8回実施した。

法人外研修については、仙台市や県・市社会福祉協議会が主催する新任職員研修、事務担当者(労務管理)研修、障害者ケアマネジメント従事者研修、サービス管理責任者等研修、社会福祉制度改革への経営対応研修、情報管理者研修などを受講するとともに、他団体主催の全国社会就

労センター研修会、全国相談支援ネットワーク研修大会、医療観察制度研修などに参加した。

また、福祉専門職の実習生指導資格取得のための「精神保健福祉士実習指導者講習」を2名の職員が受講した。

法人内研修

開催日	内 容
第1回 平成29年4月3日	①社会福祉法人制度の改革 ②中期経営計画 ③社会福祉法人緑仙会就業規則 講師 各管理者、本部事務長
第2回 平成29年6月30日	接遇マナー研修 講師：パルいずみ就労支援員
第3回 平成29年8月25日	救命救急講習 講師：泉消防署職員
第4回 平成29年11月10日	事故防止策・対応策研修 講師：社会福祉法人宮城県社会福祉協議会 福祉サービス利用に関する運営適正化委員会職員
第5回 平成29年12月1日	障害者差別解消法研修 講師：青葉区保健福祉センター 障害高齢課 障害者差別解消相談員
第6回 平成30年1月26日	個人情報保護研修 講師：本部事務係長
第7回 平成30年2月23日	コンプライアンス研修 講師：東日本マネジメントサービス 新沼 光
第8回 平成30年3月23日	各委員会からの報告 講師：安全対策委員会委員長 ：広報委員会委員長 平成30年度事業計画について 講師：各事業所支援係長

人事評価については、法人の評価制度に基づき、人事評価及び業績評価を実施した。職員採用は、ほっとすぺーすの欠員補充（常勤嘱託1名）について、9月採用（その後退職）、30年4月からの採用内定により対応した。

表彰については、仙台市長感謝状を菅原 めぐみ、若生 悟（パル三居沢）、仙台市社会福祉協議会長表彰を嶺岸 弘（パルいずみ）、全国社会福祉協議会長表彰を千葉 美佐子（理事）が受けた。

③組織統治（ガバナンス）の確立

情報公開については広報委員会を中心となり事業を行った。社会福祉法で公表が義務付けられた定款、計算書類、役員等名簿、役員報酬等支給基準及び現況報告書に加えて、事業報告及び事

業計画をホームページで公表し、法人の経営状況の情報公開を推進した。

また、法人会報や事業所広報誌の発行、ブログの更新（各事業所において月に1～2回、延べ52回）などにより、法人の情報発信を実施した。

広報誌の発行状況

事業所名	発行誌名	発行月・部数
本部	法人会報「緑仙会」	7月（171部）
ウインディ広瀬川	ウインディ広瀬川だより	6月（120部）、11月（190部）
パルいずみ	ダイナミックニュース	7月（171部）、11月（167部） 3月（168部）
ほっとすぺーす	ほっとすぺーすだより	4月（292部）、7月（262部）、 11月（257部）、1月（256部） 3月（254部）

コンプライアンス意識の向上については、法人内研修を実施したが、ハンドブック作成に向けた作業は仙台市のコンプライアンス指針等の情報収集に止まった。

リスクマネジメントの推進については、安全対策委員会が事故防止や個人情報保護の活動を行った。また、各事業所で消防訓練（火災を想定した避難誘導訓練及び通報訓練）を実施し、法人全体では総合防災訓練（大災害発生時の安全確保及び避難訓練、災害用伝言ダイヤルを使用しての情報伝達）を2月に実施した。周辺施設との連携による三居沢地域防災会議には、パル三居沢及びウインディ広瀬川が参加し、関係機関との連絡調整や施設見学を行った。

2. 評議員会及び理事会の開催

(1) 評議員会

開催日	内 容
定時評議員会 平成29年6月21日	議案 第1号議案 平成28年度計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認について 第2号議案 理事及び監事の選任について 第3号議案 役員報酬等支給基準について 報告 第1号報告 平成28年度事業報告について

(2) 理事会

開催日	内 容
第1回臨時理事会 平成29年4月1日	議案 第1号議案 理事長の選任について 第2号議案 常務理事の選任について 報告 第1号報告 指定管理者の指定について

<p>第1回定時理事会 平成29年6月6日</p>	<p>議案 第1号議案 平成28年度事業報告及び決算の承認について 第2号議案 平成29年度補正予算の承認について 第3号議案 評議員会の日時及び場所並びに議事に付すべき事項について</p> <p>報告 第1号報告 理事長の職務執行状況について 第2号報告 常務理事の職務執行状況について</p>
<p>第2回臨時理事会 平成29年6月21日</p>	<p>議案 第1号議案 理事長の選定について 第2号議案 常務理事の選定について 第3号議案 評議員選任・解任委員会運営細則の一部改正等について 第4号議案 平成29年度補正予算の承認について</p>
<p>第2回定時理事会 平成29年9月25日</p>	<p>報告 第1号報告 理事長の職務執行状況について 第2号報告 常務理事の職務執行状況について</p>
<p>第3回定時理事会 平成29年12月14日</p>	<p>報告 第1号報告 理事長専決処分事項について 第2号報告 理事長の職務執行状況について 第3号報告 常務理事の職務執行状況について</p>
<p>第4回定時理事会 平成30年3月22日</p>	<p>議案 第1号議案 平成29年度補正予算の承認について 第2号議案 第3次中期経営計画の一部改定について 第3号議案 平成30年度事業計画の承認について 第4号議案 平成30年度収支予算の承認について 第5号議案 職員就業規則の一部改正について 第6号議案 職員給与規程の一部改正について 第7号議案 再雇用職員給与規程の一部改正について 第8号議案 常勤嘱託職員就業規則の一部改正について 第9号議案 非常勤嘱託職員就業規則の一部改正について 第10号議案 臨時雇用職員就業規則の一部改正について 第11号議案 アルバイト職員就業規則の一部改正について</p> <p>報告 第1号報告 社会福祉法人・施設指導監査の結果について 第2号報告 理事長の職務執行状況について 第3号報告 常務理事の職務執行状況について</p>

3. 会議

①管理者会議

毎月1回、支援係長会議との合同開催を定例化し、中期経営計画の進捗管理を行ったほか、必要に応じ開催し、法人の経営政策及び事業経営に係る企画等の協議を行った。

②支援係長会議

毎月1回、管理者会議との合同開催を定例化し、中期経営計画の進捗管理を行ったほか、必要に応じ開催し、各事業所の事業運営に係る課題等についての検討及び情報交換を行った。

4. 委員会

①広報委員会

月1回開催し、法人会報の発行、パンフレットの改訂、事業所広報用のリーフレット制作に向けた検討、ホームページ・ブログの更新などを実施した。

②安全対策委員会

月1回開催した。利用者及び職員の事故防止を図るため、毎月、各事業所のヒヤリ・ハット事例及び再発防止策の情報共有を行うとともに、7月及び1月に、事業所巡回訪問と安全対策チェックを実施した。また、各事業所においてチェックリストを用いて職場環境についてアンケートを実施した。加えて、パソコンのウィルス・エラーチェックを毎月実施した。

5. 安全衛生体制

利用者に対して、仙台市市民健診などの受診勧奨や受診結果に基づく助言等を行うとともに、7月にウインディ広瀬川及びパル三居沢において、保健師による健康管理に係る講話を実施した。職員については、全員の定期健康診断を実施した。

6. 苦情解決体制

本制度における申し出は、なかった。

平成29年度 自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業所 ウインディ広瀬川事業報告

中期経営計画の利用率の向上については、短期入所の達成率は9割未満であったが、自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練は、概ね目標数を達成するような状況だった。

長期入院や自宅で引きこもりの生活をしている障害者の利用を促進するため、利用手続きの段階から医療機関、区保健福祉センター、障害者相談支援事業所等、関係機関と連携した。

短期入所事業については、関係機関との連携を図るとともに、利用者へ空室情報を提供して利用促進に努めた。また、緊急の受け入れについても空室状況に応じて対応した。

I 事業内容

1. 自立訓練（生活訓練）・宿泊型自立訓練事業

入院中の精神障害者に対する新規利用の促進を目的に、入所に向けた体験利用を8名について延べ109日実施した。また、5年以上の長期入院や入退院を頻回に繰り返している障害者に対して、体験利用を実施し、施設での生活に慣れてもらいながら生活訓練に対する意欲を高め、6名が新規利用に繋がった。

(1) 生活訓練

以下のとおり生活訓練プログラムを実施した。

	項目	内 容 （）は頻度または実施回数
集団プログラム	生活技術	館内清掃（毎日） 調理実習（週2回） 快適生活講座（月2回程度）※別表参照
	外出訓練	公共交通機関を使用した公共施設等の訪問（月1回以上）
	健康維持	ラジオ体操（毎日） スポーツ（週1回） ヨガ体操（月1回） 嚙下体操（1回：自由参加） 軽運動（3回：自由参加）
	教育・学習	リカバリー教室（月1～2回）
	余暇支援	社会体験プログラム※少人数プログラム（年3回） ・マンガ喫茶（7月） ・天文台（9月） ・映画鑑賞（1月） 園芸プログラム（週1回程度） 季節の行事（年5回程度） ・お花見（4月） ・七夕まつり（8月） ・芋煮会（9月） ・バス旅行（10月） ・クリスマス会（12月） ・豆まき（2月）
	社会参加	老人ホームの清掃ボランティア（月2回） アレマ隊（広瀬川河畔の清掃活動）（月1回）
	対人交流	コミュニケーション教室（月1回）

個別支援プログラム	掃除・整頓、清潔保持、調理、通院支援、買物支援、制度利用支援、服薬管理、金銭管理、余暇支援、対人関係についての支援を実施
-----------	--

別表：快適生活講座は以下の内容で実施した。

月	内 容	月	内 容
4月	節電節水・ごみの分別、掃除	10月	交通ルール、メタボリックシンドローム
5月	洗濯の仕方、自転車演習	11月	感染症、生活リズム、冬場の服装
6月	熱中症、身だしなみ、お金の使い方	12月	地域生活に向けて、お金の使い方
7月	生活習慣病、お菓子・飲み物	1月	相談支援事業所、就労支援事業所
8月	入浴・体の洗い方、歯の健康	2月	食事・栄養バランス、食品保存方法
9月	整理・整頓、悪徳商法	3月	余暇の過ごし方

(2) 宿泊訓練

個別支援計画に基づき、以下のとおり利用者の特性に合わせた支援に取り組んだ。

①就寝・起床、食事、入浴等の生活リズムの確立（利用者 8名）

規則正しい生活が身につくよう、就寝、起床、食事、入浴等の声掛けや見守りの支援を行った。

新規利用者については医療機関や家族と連携し、利用前の生活状況を確認し、本人の体力に合わせ、状態を安定させながら徐々に体力向上を目指せるよう支援した。

(支援例)

欲求のコントロールができず、食事や入浴の時間が守れない	見守り、助言の他、医療機関とも連携し支援方針の検討
入所前の生活が昼夜逆転気味で、食事の時間や回数が不規則	生活リズムを整えるため、訓練時間を守りプログラムへの参加を支援
意欲低下により自ら食事の準備ができない	買い物同行や声掛けを継続して習慣化できるよう支援

②整容、洗濯、居室整理、ゴミ分別・ゴミ出し、トイレ・風呂清掃等衛生面の習得（利用者 17名）

服装、洗顔、歯磨き、髭そり等の指導が必要な利用者に対して、本人の状況に応じて見守り、指導を行った。

洗濯を定期的に行うよう声掛けをするほか、必要に応じて干し方の指導も行った。

各自が居室のゴミの分別とゴミ出しが適切にできるよう指導を行った。

利用者全員の居室を月1回点検し、必要に応じて助言、指導を行った。居室の整理整頓を個別支援計画の目標として取り組む利用者については、職員による見守りと援助を継続した。トイレ・風呂清掃は、利用者1名につき月3～4回程度行えるように当番制で実施した。また、各自が使用して汚した際に自主的に清掃する習慣が付くよう、必要に応じて助言、指導を行った。

(支援例)

気候に応じた服装が選べない 部屋着で外出しようとする	季節や、外出場所に応じた適切な服装についての説明を行い、着替えの促しを行った
洗顔、歯磨きの習慣がない	毎日の声掛けと確認。顔に湿疹があり塗り薬を処方された場合は、毎日定時の洗顔と薬の塗布の見守りと指導

拘りから加減ができず、電気シェーバーで皮膚を傷つける	髭剃りを行う際の見守りと助言指導
----------------------------	------------------

③服薬管理（利用者 21名）

利用者の意向を尊重し、希望者には事務室での管理を行いながら自己管理に向けて訓練した。
(支援例)

自己管理している	薬の分け方の支援や、服薬確認の支援
指示された時間通りに服薬できない	医療機関と連携を図りながら、決まった時間に服薬できるよう支援を実施
通院時に自身で症状を説明できない	同行支援を行い、主治医への報告方法の助言指導。職員から医療機関への情報提供

④金銭管理（利用者 14名）

予算内での管理が難しい、計画立てが苦手等、個々の利用者の特徴や達成状況に応じて振り返りをしながら訓練を行った。

(支援例)

予算管理や、大きい金額の管理が難しい	短期間の管理から段階的に管理期間を延ばすよう支援 使途内容毎の小分け管理、短期間の振返り等の支援
使途内容に偏りがある	円グラフを用いて視覚的に分かるよう工夫
購入を要する物品が分からない	必要な生活用品の確認、買い物同行

(3) 地域生活への移行支援

①家族・関係機関との意見調整（利用者 6名）

本人を中心に、家族、医療機関、相談支援事業所、保健福祉センター、はあとぼーと仙台、グループホーム等の関係機関と十分な意見調整を行いながら、地域生活への移行を支援した。

利用中の目標確認、退所に向けた準備等を目的としたケア会議を平成29年度は3回開催しているほか、随時サービス担当者会議に参加し退所後の生活についての検討を行った。

②退所先住居の確保（利用者 7名）

利用者の希望に沿って、アパートでの単身生活、グループホーム、救護施設等、物件探しや見学、受入れ先との情報共有、申請手続き等の支援を行った。必要に応じて体験利用の調整や送迎の支援も行った。結果、3名の利用者が希望していたアパートへの単身生活へ移行した。グループホームに移行した3名の内1名は、本人の希望通り1年以内での地域移行を実現した。

③生活保護等の相談・申請（利用者 2名）

家族、保健福祉センター等の関係機関とも連携し、申請手続きの支援を行った。

④必要な在宅福祉サービスの導入（利用者 3名）

医療機関、相談支援事業所や行政機関等とも連携し、訪問看護、財産管理サポートセンターの導入、まもり一ぶ仙台的の申込支援を行った。

⑤地域生活における日中活動等へ向けた取組み（利用者 7名）

本人の希望をもとに、通所事業所（就労移行支援事業所、就労継続支援B型事業所、障害者小規模地域活動センター）や精神科デイケアの見学、体験利用実施等の支援を行った。また、退所前に転居先から利用予定の事業所までの移動方法や周辺環境の確認のため、同行支援を行った。その結果、地域移行後に就労移行支援事業所へ2名、精神科デイケアへ1名通所を開始している。

(4) 面接相談

①随時面接

精神的不調の訴えや、生活上の困りごと、職員からの随時の助言指導などを含め、状況に応じた生活課題に関する面接を行った。

②定期面接

全ての利用者に対して、1か月に1回以上の面接を行った。

③家族面接

家族の相談への対応や本人の状況報告、事業所の取り組み説明等のため利用者12名の家族に実施した。

(5) 健康管理

①仙台市が実施する各種健診の情報提供、受診同行、受診後の助言

市民健診の周知を行い、実人数6名、延べ12名が各種健診を受診した。受診した利用者については結果に基づく助言指導を行った。

②体重及びバイタルチェック

利用者全員に実施し、助言指導を行った。急激な体重変化が認められた利用者については、計測頻度を増やし医療機関に情報提供をした。

③健康教育

7月に保健師による生活習慣病の予防についての講話を実施。また、食生活についてプログラム等で利用者に対する助言指導を行った。偏食傾向がある利用者には、個別の助言指導を継続した。利用者から体調不良の訴えを受けた際は、状況に応じて受診を勧めた。

(6) 退所者へのアフターケア

①訪問サービス

平成29年度は9名の利用者が退所。内、単身自立3名、グループホーム入居者3名に対して3か月間のアフターケアを実施。必要に応じて関係機関職員と同行し、本人との関係作りや支援の引継ぎを行った。

また、地域の単身生活者に対する訪問支援を13回実施した。

②電話相談、面接相談

随時実施した。

③関係機関との連絡調整

随時実施した。

④短期入所（ショートステイ）

単身生活者については短期入所の利用を促し、地域定着のための支援を行った。

(7) 広報活動

6月、11月に「ウインディ広瀬川だより」を発行し（発行部数：6月120部、11月190部）、下表のとおり配布した。また、月に1～2回（延べ13回）、ブログを更新し、行事やプログラムなど活動内容の紹介を行った。

青葉区役所、若林区役所の障害高齢課や、県立精神医療センター、国見台病院、障害者相談支援事業所でれんこには、「ウインディ広瀬川のご案内」も一緒に持参し、直接担当者に利用者確保に向けた広報活動を実施した。

区 分	部 数		配 布 先
	6 月	1 1 月	
行政機関	3 0	3 0	各区保健福祉センター障害高齢課、仙台市精神保健福祉総合センターなど
病院関係	4 5	5 0	仙台市内の精神科病院及び精神科クリニック、県立精神医療センター
福祉サービス関係	4 5	1 1 0	障害者相談支援事業所など
計	1 2 0	1 9 0	

(8) 実習生の受入れ・指導

実 習 種 別	学 校 名	人 数
精神保健福祉援助実習	東北福祉大学	2 名
	東北福祉大学（通信）	2 名
精神看護学実習	徳洲看護専門学校	5 1 名
介護等体験実習	宮城教育大学	3 名
	宮城学院女子大学	2 名
	東北大学	2 名
計		6 2 名

(9) 仙台市の協議会への参加

青葉区障害者自立支援協議会「サポネットあおば」の相談支援事業所等連絡会と、実務者ネットワーク会議サポネットあおばのつどいへ7回参加した。

(10) その他

地域に繋がる取組みとして、三居沢地域防災会議や青葉山町内会の活動へ参加した。

2. 短期入所（ショートステイ）事業

本人、家族の休息や、緊急時の対応等を目的に、延べ554人のショートステイ利用があった。

3. 地域移行支援事業における体験宿泊支援、地域定着支援事業における一時滞在支援

平成29年度は、利用実績はなかった。

平成29年度 就労移行支援事業所 パルいずみ事業報告

利用者の雇用につながるよう、基礎訓練及び講義等の事業所内プログラムに加え、個々の状況や希望に沿った労働条件の絞り込みを行い、職場見学及び実習等の事業所外プログラムを提供した。また、外部より講師を招いて「身だしなみ講座」を実施し、就労への意欲向上に取り組んだ。その結果、1名が一般雇用で採用され、本人及び雇用主からの相談に応じ定着支援を進めた。

利用者確保に向けて相談支援事業所等への広報や訪問活動を積極的に実施した結果、目標には達しないものの、28年度と比較し2割を超える利用者数の増加となった。

1. 事業内容

(1) 就労支援

利用者に対し、職場見学や実習、その他必要な支援を行った結果、1名就職した。

(中期経営計画目標：3名)

①就労プログラムの実施

事業所内外において、計画的にプログラムを実施した。

	プログラム	内 容	実施状況	
事業所内	基礎訓練	①ミーティング時の司会	毎日	
		②睡眠日誌	個別対応	
		③発声練習	個別対応	
		④文字の書き取り・漢字の読み書き	個別対応	
		⑤計算問題	個別対応	
		⑥パソコン入力 (Word 1 2 コース Excel 6 コース)	個別対応	
	講義 (就労支援シート)	■ステップ1 ○就労に向けた動機づけ		7回
		①働く目的		
		②働くための準備		
		③自分に合った仕事を見つける		
		④障害開示・非開示		
		⑤雇用形態 (一般雇用・障害者雇用)		
		⑥社会資源		
		⑦ステップ1のまとめ		7回
		■ステップ2 ○就労に関わる法律		
		①労働基準法		
		②パートタイム労働法		
		③最低賃金法		
		④医療保険 (健康保険・国民健康保険)		
		⑤労働保険 (労災保険・雇用保険)		
	⑥年金 (国民年金・厚生年金)		10回	
⑦ステップ2のまとめ				
■ステップ3 ○就労に必要なビジネスマナー				
①第一印象を磨く				
②身だしなみ、姿勢、お辞儀				
③コミュニケーション				
④敬語、名刺交換				
⑤席次				
⑥話すスピードのトレーニング				

		⑦電話対応	
		⑧履歴書の書き方	
		⑨面接（講義編）	
		⑩面接（実践編）	
	講義	身だしなみ講座（資生堂ジャパン株式会社職員2名）	1回
	就労準備講座 （実技）	①履歴書作成	個別対応
		②模擬面接	個別対応
		③敬語の使い方	個別対応
事業所外	販売訓練	①区役所・福祉プラザ・県庁	12回
	職場見学	①株式会社 東北ロイヤルパークホテル（1人）	5回
		②株式会社 NTT 東日本サービス（1人）	
		③みやぎ生協 南光台店（1人）	
		④ヤマトボックスチャーター株式会社（1人）	
		⑤株式会社デザートランド（1人）	
	職場実習	①株式会社 東北ロイヤルパークホテル（事務補助）	3回
		②みやぎ生協 南光台店（品出し）	5回
		③株式会社デザートランド（1人）	4回
	ハローワーク	求人検索	17回

②ハローワーク仙台・仙台市障害者就労支援センター・宮城県障害者職業センターとの連携

宮城労働局と連携し、株式会社ロイヤルパークホテルの職場見学及び職場実習3回（3日間）、株式会社デザートランドの職場見学及び職場実習4回（4日間）を実施するとともに、仙台市障害者就労支援センターと連携し、株式会社NTT 東日本サービスの職場見学を実施した。

また、みやぎ生協南光台店の職場見学及び職場実習5回（5日間）や、ハローワーク仙台の求人検索を活用したヤマトボックスチャーター株式会社の職場見学を実施するとともに、仙台市役所の非常勤嘱託職員採用試験受験に職員が同行した。

③就労後の職場定着支援

障害者雇用の利用者を対象に実施。フォロー継続者5名分として、事業所訪問12回、電話連絡14回を実施した。（中期経営計画目標：7名）

No.	採用年月	性別	年齢	利用期間	現在の勤務状況	支援状況
1	H24.3	男	51	1年3か月	継続勤務中（6年0か月）	不定期で本人から連絡がある
2	H25.2	男	44	1年9か月	継続勤務中（5年1か月）	定期連絡 随時
3	H26.4	女	43	1年2か月	継続勤務中（3年11か月）	定期連絡 随時 事業所訪問 随時
4	H28.12	男	27	1年11か月	継続勤務中（1年3か月）	定期連絡 随時 事業所訪問 随時
5	H30.3	女	33	1年11か月	継続勤務中（0年1か月）	定期連絡 随時 事業所訪問 随時

(2) 作業訓練（下請作業・自主製品）

①下請作業の実施、自主製品の制作、販売への参加

プログラムに沿って確実に実施した。

②個々のニーズや能力にあった作業提供

本人の希望や能力を考慮しながら作業の提供を行った。

③作業場面で役割を持つことにより、責任感や社会性を身につけられるような支援

各人の役割をホワイトボードに明記して、責任を持って作業に取り組めるよう支援した。

(3) 相談支援

①定期面接

3か月ごとに定期的実施し、課題に対する振り返り・個別支援計画の評価・見直しを行った。

②随時面接

利用者の申し出による面接では、生活状況の改善や不安の軽減に向けた助言等を行った。また、職員からの声掛けにより面接を実施し、課題解決や目標達成に向けた働きかけを行った。

(4) 健康管理

①各区で実施する各種健診の情報提供

各区保健福祉センターで実施する健診の情報提供を行い、受診結果の把握及び必要に応じた助言等を行った。

②軽運動（ラジオ体操・ストレッチ）の実施

毎日、作業開始前のラジオ体操と終了時のストレッチを実施した。

③健康講話（健康な体づくりに向けた運動・食生活の支援等）の実施

利用者との面接等の機会を通じて、必要に応じて働きかけた。

④定期的な体重・血圧・脈の測定（自己管理意識の向上）

利用者との定期面接（1か月に1回程度）の機会に測定し、働きかけを行った。

(5) 余暇支援（行事・レクリエーション）

①利用者同士の交流を目的とした季節ごとの行事实施

②食事会実施

利用者の希望を反映させながら、以下のとおり食事会・レクリエーションを実施した。

ランチ	4月	親子丼	10月	クリームシチュー
	5月	豚のしょうが焼き	11月	すいとん、あんみつ
	6月	トマトの冷製スープパスタ	12月	オムライス
	7月	冷やし中華	1月	クリームスープパスタ
	8月	冷麺	2月	豚丼
	9月	芋煮、鶏肉のソテー	3月	ハヤシライス
レクリエーション	4月	お花見	10月	バス旅行（山形方面）
	7月	ランチバイキング	1月	ランチ&ボウリング

③他機関が実施するイベント情報の紹介

宮城県社会福祉協議会からのプロ野球試合観戦や東北福祉大学吹奏楽部の定期演奏会について、周知を行った。

(6) 広報活動

①広報誌「ダイナミックニュース」発行

下表のとおり、年3回170部程度発行した。泉区保健福祉センター、仙台市自転車交通安全課、仙台市博物館など、7月7か所、11月8か所、3月4か所には持参して広報を行った。

区 分	部 数			配布先
	7 月	1 1 月	3 月	
行政関係	1 2	1 2	1 4	仙台市健康福祉局関係課、各区保健福祉センター、仙台市精神保健福祉総合センターなど
病院関係	4 5	4 4	4 4	仙台市内の精神科病院、精神科クリニック、県立精神医療センター、名取熊野堂病院
福祉サービス関係	5 2	5 2	5 2	宮城県社会福祉協議会、仙台市社会福祉協議会、各区社会福祉協議会、障害者相談支援事業所、障害福祉サービス事業所など
学校関係	8	8	8	東北福祉大学、東北文化学園大学、東北文化学園専門学校、仙台白百合女子大学、高崎福祉医療カレッジ、東北大学、仙台青葉学院短期大学、仙台徳洲看護専門学校
作業関係	3 6	3 3	3 0	みやぎセルフ協働受注センター、ベガルタ仙台、仙台市公園緑地協会、JR 東日本リテールネット、ヤマト運輸、仙台市博物館ミュージアムショップなど
その他	1 8	1 8	2 0	役員、評議員など
計	1 7 1	1 6 7	1 6 8	

②ブログ

月に1～2回、延べ13回更新し、活動内容（作業、販売会告知や自主製品紹介、レクリエーション）の紹介を行った。

③関係機関訪問等による活動内容の紹介

関係機関への訪問などにより、下表のとおり事業所紹介や活動内容紹介を行った。

	訪 問 先 等
7 月	泉区保健福祉センター、仙台市障害者就労支援センター、青葉病院
8 月	仙台市北部発達支援相談センター、ハローワーク仙台
1 0 月	東北大学病院、宮城県光明支援学校
1 1 月	障害者相談支援事業所ソキウス
1 2 月	青葉区保健福祉センター、障害者相談支援事業所えがお
1 月	東北会病院、国見台病院

3月	太白区保健福祉センター、宮城野区保健福祉センター、若林区保健福祉センター、 仙台市南部発達支援相談センター、せんだんホスピタル、 障害者相談支援事業所ピース・スマイル、障害者相談支援事業所ゆあらいふ
----	---

④各区の家族教室、精神科デイケアや病院等での利用希望者に対する活動内容の説明

7月にせんだんホスピタル思春期デイケア（利用者9名、職員2名）、1月には東北大学病院
デイケア（利用者4名、職員2名）の見学依頼を受け対応した。9月に「泉区家族教室」、10
月に「東北会病院家族会」で職員による講話を実施した。

(7) 実習生の受入れ・指導

実習種別	学校名	人数
精神保健福祉援助実習	仙台白百合女子大学	2名
	東北福祉大学	6名
	日本医療大学	1名
体験実習	仙台白百合女子大学	3名
介護等体験実習	東北学院大学	1名
計		13名

(8) 就労アセスメントの実施

28年度より実施していた利用者が、4月末でアセスメントを終了し、退所した。また、7月か
ら9月にかけて1名の就労アセスメントを実施した。

(9) 仙台市の協議会への参加

月1回開催のよめごと会議（泉区障害者自立支援協議会実務者ネットワーク会議）に参加した。
（9回参加）

平成29年度 就労継続支援B型事業所 パルいずみ事業報告

利用者一人ひとりの状態や希望に沿ったサービスを提供し、個々の目標達成が図られるよう支援を行った。工賃向上については、職員会議やミーティング、利用者とのグループワークの機会を通じて生産活動内容の充実等について検討するとともに、利用者一人ひとりの特性に合わせた作業方法を検討し、実施を進めた。

利用者確保に向けて相談支援事業所等への広報や訪問活動を積極的に実施したが、平成29年度の利用者増加には至らなかった。また、生産活動に関しては、年間売上が若干減少したものの、利用者数の減があったことから、平均工賃月額は28年度と比較して向上した。

1. 事業内容

(1) 生産活動

工賃向上への取組み（中期経営計画目標 平均工賃月額 11,500円以上）

（年間売上合計）

年間売上合計 3,736,284円（前年度比96.2%） （平成28年度実績3,882,359円）	下請作業事業	2,918,687円
	自主製品 （アクセサリ事業）	817,597円

（平均工賃）

平均工賃月額	12,557円（前年度比106.2%） 最高平均者 27,366円	平成28年度実績	11,825円
時給額	325円（前年度比112.1%）	平成28年度実績	290円

①計画的な作業提供

月間作業計画表に基づき毎日の作業計画を作成し、利用者一人ひとりの状況と作業の進捗状況を職員ミーティングで共有し、計画的な作業提供を行えるよう取り組んだ。

②新規自主製品の開発及び販路拡大

新規自主製品については、刺繍でデザインしたヘアゴムを制作した。また、杜の都のケヤキの精ストラップに関し、仙台七夕の吹き流しの飾りをつけた七夕バージョン、クリスマスリースの飾りをつけた光のページェントバージョンを制作して販売したことに加え、花の飾りをつけた春バージョンの制作を開始した。加えて、ベガルタ仙台ホームゲームでの販売に向けてベガルタ仙台をイメージしたヘアゴムやクローバーストラップを制作した。

自主製品の販売については、新規製品の営業を行いながら、仙台駅構内での売店、仙台市博物館ミュージアムショップ、セルコホームズパラダイス八木山、セカンドメガネなどにおける委託販売を継続している。

販売会については、下表のとおり参加し、自主製品の販売及び事業所紹介を行った。

	販売会名
4月	泉区役所販売会
7月	泉区役所販売会、福祉プラザ販売会
8月	泉区役所販売会

9月	泉区役所販売会、福祉プラザ販売会、泉ヶ丘小学校バザー
10月	泉区役所販売会、ベガルタ仙台販売会、くにみ街道まつり 学園祭委託販売（東北福祉大学、仙台白百合女子大学、東北文 化学園専門学校）
11月	泉区役所販売会、ベガルタ仙台販売会
12月	ナイスハートバザール in 仙台、県庁販売会
1月	泉区役所販売会
2月	泉区役所販売会
3月	SWING からふるバザール

③新規下請作業の獲得

取引先の事業者積極的に連絡し、作業獲得に努めたほか、近隣のヤマト運輸の営業所を訪問し、営業を行った。また、取引先から紹介された事業者へ作業獲得に向けて事業説明を行った。

下請作業に関する取引先

事業所名等	作業内容
宮城読売IS	DMの封入、箱折、データ入力等
ヤマト運輸、東京商工リサーチ、 ネットトヨタ仙台	DMの封入
仙台市自転車交通安全課	データ入力
運龍堂株式会社	漢方茶の計量及び袋詰め
望月商店	芯棒製作
リヒテンドゥーシェ株式会社	箱折、ドレッシングのラッピング等

④作業工程のマニュアル化

従来からのマニュアルについては、利用者の意見を反映し、改善を加えた。

⑤作業能力向上のための技術指導の実施

利用者の個別支援計画に基づき、時間ごとの作業数の設定や作業方法の工夫を促し、生産性を高めていけるように働きかけた。

また、利用者ごとの特性に合わせて、作業が円滑に進められるように作業方法を視覚化するなどの工夫を加えた。

⑥作業環境の整備

作業室内は常に整頓された状態を維持するとともに、身体的に配慮が必要な者等への対応を図り、事故等が起こらないように努めた。また、作業資材等についても作業効率が良くなるように配置した。

⑦製品の品質向上

自主製品については、職員が必ず確認を行うようにし、品質の維持向上を図った。また、下請作業等についても資材搬入時と納品時の確認を実施し、作業の質が維持できるよう取り組んだ。

(2) 相談支援

①定期面接

6か月ごとの個別支援計画の見直しに係る面接実施のほかに、1か月に1回定期面接を行い、利用状況や生活状況の確認及びバイタルチェックを実施した。

②随時面接

利用者の申し出による面接では、生活状況の改善や不安の軽減に向けた助言等を行った。また、職員からの声掛けにより面接を実施し、課題解決や目標達成に向けた働きかけを行った。

(3) 就労支援

①就労移行支援事業との連携（就労プログラムへの参加等）

利用者の就労への意欲や目標に応じ、ステップアップの方法の一つとして利用者に就労移行支援事業の情報提供を行った。12月から1名の利用者が就職に向け、就労移行支援事業の利用を開始した。

②利用者の希望に沿った支援の実施

定期的な面接場面等を通じて、利用者の意向を適切に把握し、希望に沿った支援を提供できるよう努めた。一般就労を希望していた利用者1名に対し、状況把握や必要に応じて助言等を行い、11月にパルいずみを終了しアルバイトに移行した。

(4) 高齢精神障害者への支援

①作業環境の整備

利用者が活動しやすいように作業に必要な物の配置を行ったほか、移動しやすいように配慮を行った。

②本人の体力や障害程度に合わせた作業方法の検討及び指導

一人ひとりの状態に応じて作業内容、作業方法について検討し、指導を進めた。

③関係機関との連携

家族や関係機関と必要に応じて連絡調整等を進めながら、支援を提供した。

(5) 健康管理

①各区で実施する各種健診の情報提供

各区保健福祉センターで実施する健診の情報提供や、受診結果の把握及び必要に応じた助言等を行った。

②軽運動（ラジオ体操・ストレッチ）の実施

毎日、作業開始前のラジオ体操と終了時のストレッチを実施した。

③健康講話（健康な体づくりに向けた運動・食生活の支援等）の実施

利用者との面接等の機会を通じて、必要に応じて働きかけた。

④定期的な体重・血圧・脈の測定（自己管理意識の向上）

利用者との定期面接（1か月に1回程度）の機会に測定し、働きかけを行った。

(6) 余暇支援（行事・レクリエーション）

①利用者同士の交流を目的とした季節ごとの行事实施

②食事会実施

利用者の希望を反映させながら、以下のとおり食事会・レクリエーションを実施した。

ランチ	4月	親子丼	10月	クリームシチュー
	5月	豚のしょうが焼き	11月	すいとん、あんみつ
	6月	トマトの冷製スープパスタ	12月	オムライス
	7月	冷やし中華	1月	クリームスープパスタ
	8月	冷麺	2月	豚丼
	9月	芋煮、鶏肉のソテー	3月	ハヤシライス
レクリエーション	4月	お花見	10月	バス旅行（山形方面）
	7月	ランチバイキング	1月	ランチ&ボウリング

③他機関が実施するイベント情報の紹介

宮城県社会福祉協議会からのプロ野球試合観戦や東北福祉大学吹奏楽部の定期演奏会について、周知を行った。

(7) 広報活動

①広報誌「ダイナミックニュース」発行

下表のとおり、年3回170部程度発行した。泉区保健福祉センター、仙台市自転車交通安全課、仙台市博物館など、7月7か所、11月8か所、3月4か所には持参して広報を行った。

区分	部数			配布先
	7月	11月	3月	
行政関係	12	12	14	仙台市健康福祉局関係課、各区保健福祉センター、仙台市精神保健福祉総合センターなど
病院関係	45	44	44	仙台市内の精神科病院、精神科クリニック、県立精神医療センター、名取熊野堂病院
福祉サービス関係	52	52	52	宮城県社会福祉協議会、仙台市社会福祉協議会、各区社会福祉協議会、障害者相談支援事業所、障害福祉サービス事業所など
学校関係	8	8	8	東北福祉大学、東北文化学園大学、東北文化学園専門学校、仙台白百合女子大学、高崎福祉医療カレッジ、東北大学、仙台青葉学院短期大学、仙台徳洲看護専門学校
作業関連関係	36	33	30	みやぎセルフ協働受注センター、ベガルタ仙台、仙台市公園緑地協会、JR東日本リテールネット、ヤマト運輸、仙台市博物館ミュージアムショップなど
その他	18	18	20	役員、評議員など
計	171	167	168	

②ブログ

月に1～2回、延べ13回更新し、活動内容（作業、販売会告知や自主製品紹介、レクリエーション）の紹介を行った。

③関係機関訪問等による活動内容の紹介

関係機関への訪問などにより、下表のとおり事業所紹介や活動内容紹介を行った。

	訪 問 先 等
7月	泉区保健福祉センター、仙台市障害者就労支援センター、青葉病院
8月	仙台市北部発達支援相談センター、ハローワーク仙台
10月	東北大学病院、宮城県光明支援学校
11月	障害者相談支援事業所ソキウス
12月	青葉区保健福祉センター、障害者相談支援事業所えがお
1月	東北会病院、国見台病院
3月	太白区保健福祉センター、宮城野区保健福祉センター、若林区保健福祉センター、 仙台市南部発達支援相談センター、せんだんホスピタル、 障害者相談支援事業所ピース・スマイル、障害者相談支援事業所ゆあらいふ

④各区の家族教室、精神科デイケアや病院等での利用希望者に対する活動内容の説明

7月にせんだんホスピタル思春期デイケア（利用者9名、職員2名）、1月には東北大学病院デイケア（利用者4名、職員2名）の見学依頼を受け対応した。9月に「泉区家族教室」、10月に「東北会病院家族会」で職員による講話を実施した。

(8) 実習生の受入れ・指導

実 習 種 別	学 校 名	人 数
精神保健福祉援助実習	仙台白百合女子大学	2名
	東北福祉大学	6名
	日本医療大学	1名
体験実習	仙台白百合女子大学	3名
介護等体験実習	東北学院大学	1名
計		13名

(9) 仙台市の協議会への参加

月1回開催のよめごと会議（泉区障害者自立支援協議会実務者ネットワーク会議）に参加した。
（9回参加）

平成29年度 就労継続支援B型事業所 パル三居沢事業報告

下請作業や自主製品制作、清掃や除草作業など、多様な作業種目を提供し、利用者一人ひとりがやりがいを持って活動を継続していけるよう作業訓練の充実を図った。また、毎日通所することが困難な重度の障害者を積極的に受け入れるとともに、現利用者の通所日数増に向けた生活支援を行い、利用率の向上に努めた。

1. 事業内容

(1) 生産活動

工賃向上への取組み（目標平均工賃月額 9,000円）

（年間売上合計）

年間売上合計	下請作業	1,093,698 円
1,811,388 円（前年度比 78.8%）	外部作業（清掃、除草）	570,600 円
（平成 28 年度実績 2,299,615 円）	自主製品（キャンドル、手芸品）	147,090 円

（平均工賃）

平均工賃月額	8,467 円（前年度比 99.3%） 最高平均者 12,230 円	平成 28 年度実績	8,530 円
時給額	176 円（前年度比 83.0%）	平成 28 年度実績	212 円

①下請作業（医療用コルセットの組立・企業広告等の封入・割り箸の袋詰め・紙垂制作）

医療用コルセット組立に関しては、多くの方が参加できるよう利用者の育成に取り組み、これまで以上の受注が可能となったことから、委託元と協議し、10月以降においては、それまでのひと月あたり40体から50体に受注量を増やした。

企業広告等の封入に関しては、引き続き、パルいずみと共同で取り組み、作業の分業化を工夫するなど作業の効率化を図ることで、受注量の増に対応した。また、平成30年度において、安定した封入作業が確保できるよう業者との契約締結に向け準備を進めた。

割り箸の袋詰め作業においては、作業資材を常に確保することができるよう委託元と協議のうえ受注量を増やすことで合意し、利用者の安定した作業活動が確保されるよう努めた。

また、大崎八幡宮どんと祭で使用される紙垂制作に関しては、平成29年度においても委託元と契約締結し、12月中に納品を完了した。

②外部作業（清掃・除草作業等）

清掃作業に関しては、仙台北教会及び仙台YWCAの定期的な清掃を実施しており、合計73回実施した。

除草作業に関しては、新たに仙台市消防局及び交通局から委託を受け、交通局においては地下鉄南北線5駅の出入口付近5か所、消防局においては無線基地局3か所の除草作業をそれぞれ7月、8月に実施した。

また、平成28年度より継続して実施している東北大学片平キャンパスでの除草作業については、利用者の作業負担軽減の視点から作業内容の見直しについて協議し、受託額を従来のままとしながら、作業内容を「草集め」に特化し、9回実施した。

また、個別に依頼のあった民家敷地での除草作業を5件受託し実施した。

③自主製品の販売

アクリルたわし、キャンドル等の自主製品については、委託販売を継続して行ったほか、区役所での販売会や大学における学園祭、ナイスハートバザール in 仙台にパルいずみと共同で出店した。

また、7月22日に開催された八幡小学校PTA主催「わくわくサマーフェスティバル」や、10月29日に開催された東北福祉大学主催「くにみ街道まつり」では、自主製品である「割り箸鉄砲」の販売ブースに射的コーナーを設置して祭りを盛りあげ、地域との交流に積極的に参加し、障害への理解浸透に努めた。なお、この二つのイベントでは、「割り箸鉄砲」合計150機を販売した。

また、新たな自主製品として、ハワイアンリボンレイ(手芸品)を作製し販売した。

(2) 相談支援

①定期面接

個別支援計画の評価・見直しの面接のほか、利用者の状況に合わせて定期面接の機会を設け、きめ細かな支援に努めた。

②随時面接

利用者の生活面等の相談を随時受けることで、不安軽減を図り、安心して通所できるよう支援に努めた。

(3) 就労支援

一般就労を希望している利用者に対し、希望する就労移行支援事業所と連携しつつ、必要な情報を提供した。

また、ハローワークを定期的に利用している利用者に対し、進捗状況を確認し、必要な助言指導を行った。

(4) 高齢精神障害者への支援

①作業環境の整備

作業室内の環境整備を行い、延長コード等の配線を整理しつまずきによる転倒予防を図るとともに、動きやすいスペースの確保に努めた。

②本人の体力や障害程度に合わせた作業方法の検討及び指導

本人と作業方法について話し合い、体に負担のかからない完成数の設定や、またできない部分に関しては職員と共に行うことで、達成感を味わえるよう取り組んだ。

③関係機関との連携

加齢に伴い通所を含め在宅生活が困難となった利用者に対し、相談支援事業所、保健福祉センター保護課等と連携し、救護施設への入所に向け支援した。

(5) 健康管理

①各區で実施する各種健診の情報提供

仙台市市民健診の受診勧奨を行い、受診した利用者からは、随時結果報告を受けている。

②ラジオ体操の実施

作業開始前のラジオ体操を実施した。

③健康講話の実施

利用者との面接等の機会を通じ、必要な場面で働きかけたほか、利用者ミーティング時に健康管理に関する注意喚起を行った。

④体重・血圧の測定（自己管理意識の向上）

平成 29 年 9 月に、利用者自らが健康への意識を高められるよう、血圧計と体重計を会議室に設置した。また、利用者ミーティング時に血圧に関する勉強会を行い、利用者の健康に係る自己管理意識の向上に努めた。

(6) 余暇支援（行事・レクリエーション）

利用者間及び職員との交流や親睦を図れるよう、利用者の希望を反映させつつ以下の行事、レクリエーションを実施した。

4月	親睦会	10月	バス旅行（登米方面）
5月	スポーツ	11月	芋煮会
6月	食事会（外食）	12月	クリスマス会、金管五重奏演奏会
7月	食事会（土用の丑の日）	2月	豆まき
8月	食事会（冷やし中華）、すいか割り	3月	食事会（外食）
9月	カラーセラピー		

(7) 広報活動

月に1～2回、延べ13回ブログを更新、活動内容（作業、販売会、レクリエーション）の紹介を行った。

また、国見台病院や東北会病院、せんだんホスピタル等に法人会報を配布した際、法人事業所の紹介と利用者募集の案内を行った。

(8) 実習生の受入れ・指導

実習種別	学校名	人数
精神保健福祉援助実習	東北文化学園大学	1名
	高崎福祉医療カレッジ	1名
	仙台白百合女子大学	2名
	東北福祉大学	4名
	東北福祉大学（通信）	1名
精神看護学実習	東北大学	69名
	仙台青葉学院短期大学	55名
	徳洲看護専門学校	51名
介護等体験実習	宮城教育大学	2名
計		186名

(9) 仙台市の協議会への参加

青葉区自立支援協議会実務者ネットワーク会議サポネットあおばのつどいに1回出席した。

平成29年度 障害者相談支援事業所 ほっとすぺーす事業報告

仙台市障害者相談支援事業実施要綱に基づく仙台市からの委託事業（委託相談支援）では、生活上の問題を抱えていても福祉サービスの利用や支援につながりにくい障害者に対し、行政機関や医療機関と連携しながら積極的な支援を行った。また、青葉区自立支援協議会に参画し、関係機関とのネットワークの構築を図りながら地域課題への取り組みについて検討した。

当法人の自主事業である指定特定相談支援事業（計画相談支援）では、特に対応困難な障害者を中心に、サービス等利用計画の作成及び定期的なモニタリングをしながら支援した。

また、指定一般相談支援事業（地域相談支援）では、精神科病院に長期入院している方に対して、退院に向けた支援を行った。

I 事業内容

1. 障害者相談支援事業（委託相談支援）

(1) 障害者相談支援業務

152名（男性79名、女性73名）の利用者が委託相談支援を利用し、うち49名が新規利用者となった。

支援内容としては、216回の訪問、56回の面接、47回の同行支援を実施。また、個別支援会議を124回、関係機関との連絡調整を898回、その他電話相談等の支援と併せると延べ3595件、関係機関との連携のもとで支援をした。

（中期経営計画目標：委託相談支援事業延べ利用者数3000件）

①福祉サービスの利用援助

仙台市権利擁護センター（まもり一ぶ仙台）や移動支援などの利用に関する情報提供や助言、ホームヘルパーによる家事援助（居宅介護）、短期入所等の利用に係る調整や援助を行った。

②社会資源を活用するための支援

利用者の希望を確認し、就労継続支援事業所や自立訓練事業所、共同生活援助事業所等の紹介や見学の同行を行った。また、住居探しのための情報提供や同行等も行った。

③社会生活力を高めるための支援

関係機関や障害福祉サービス事業所等とも連携しながら、健康、服薬、金銭管理、公共交通機関の利用、趣味や余暇活動の充実など自立した社会生活を営むことができるよう必要な支援を行った。

④専門機関の紹介

利用者のニーズを把握した上で、各種専門機関の紹介を行った。また、病識が不十分な方や精神症状が重く生活上の問題が多い方について、専門機関と連携しながら支援を行った。

⑤障害者ケアマネジメント

各区保健福祉センター等の関係機関とも連携しながら、利用者の希望を確認し、それぞれが持っている力を活かせるよう支援を行った。高齢の親と同居しているケースも増えており、必要時のサービス導入等に備えて本人との信頼関係の構築を図りながら、家族の相談にも応じた。

⑥地域住民等に対する普及啓発

10月に木町通地域包括支援センターにおいて当事業所についての説明を行うとともに、地域課題の把握に努めた。また、地域住民の障害者理解を促すために、7月に近隣の上川内町内会及び10月、2月に青葉山町内会が行っているサロン活動に参加し、障害者相談支援事業所についての説明を行いつつ、地域ニーズの把握を行った。さらに、2月に川内コミュニティセンターに

て「我が事・丸ごと地域共生社会の実現について」をテーマに講演会を実施し、障害者福祉や地域づくりについて、地域住民と共に考える機会とした。

⑦その他生活支援

障害の当事者スタッフによる電話相談を行い、当事者の経験を活かした相談支援を行った。

福祉サービスに関する支援等に限らず、居室の掃除や自宅敷地内のゴミの処分など利用者の生活全般における困りごとに対して支援を行った。

⑧障害者同士が自主的に交流できる場や地域住民との交流を図るための場の提供

誰もが自由に利用できるフリースペースとしてサロンの場を提供し、必要に応じて来所者の個別相談を実施した。

⑨広報活動

月に1～2回（延べ13回）ブログを更新し、活動内容の紹介を行った。また、広報誌「ほっとすぺーす便り」を4月（292部）、7月（262部）、11月（257部）、1月（256部）、3月（254部）に発行し、下表のとおり配布した。

区 分	部 数					配布先
	4月	7月	11月	1月	3月	
利用者	209	201	196	195	193	
関係機関	83	61	61	61	61	仙台市健康福祉局関係課、精神科病院及びクリニック、宮城県及び仙台市社会福祉協議会、障害福祉サービス事業所、障害者相談支援事業所、法人役員など
計	292	262	257	256	254	

(2) 障害者虐待の防止

仙台市障害者差別解消・虐待防止連絡協議会や障害者の虐待防止及び差別解消のための権利擁護に関する研修会等に参加することで、障害者虐待防止の意識向上に努めた。

(3) 障害を理由とする差別の解消

仙台市障害者差別解消・虐待防止連絡協議会や障害者の虐待防止及び差別解消のための権利擁護に関する研修会等に参加することで障害を理由とする差別の解消に向けて意識向上に努めた。

2. 指定特定相談支援事業（計画相談支援）

157名（男性75名、女性82名）と計画相談の契約を締結しており、アセスメント、サービス等利用計画の作成143件、モニタリング、サービス担当者会議の開催など、個々の利用者の状況に応じた継続的な支援を行った。

（中期経営計画目標：サービス等利用計画作成件数140件）

計画相談対象者に対し、550回の訪問、21回の面接、82回の同行支援を実施し、アセスメントや障害福祉サービスへつなぐ支援を丁寧に進めた。また、個別支援会議を288回、関係機関との連絡調整を1973回行い、障害福祉サービス事業所や行政、医療機関等と密に連携を図った。

特に訴えが多くサービスが定着しないケース、その都度要望が変わり頻繁な計画変更が求められ

るケース、支援を求める力が弱く頻繁な関わりが必要なケースなど、指定特定相談支援事業所では対応の難しいケースにおける支援を積極的に行い、委託相談支援事業所の強みを生かした支援を行った。

3. 指定一般相談支援事業（地域相談支援）

（1）地域移行支援

2名の利用者に対し、地域移行支援を実施。入院中の利用者を訪問し、信頼関係を構築しながら延べ16回訪問し、うち4回の外出同行支援を行った。また、宿泊型自立訓練事業所と連携し、体験宿泊及び体験利用支援を実施した。

（2）地域定着支援

支援対象者がおらず、実施していない。

4. 指定障害児相談支援事業

サービス等利用計画作成依頼が無く、実施していない。

5. その他

（1）青葉区障害者自立支援協議会への積極的な参画（計31回）

青葉区障害者自立支援協議会の理念である「障害のあるなしに関わらず、誰もが住みやすい地域づくり」に向け、事務局として運営会議（9回）に参画した。指定特定相談支援事業所と委託相談支援事業所の円滑かつ効果的な連携体制構築を目的とした相談支援プロジェクト（7回）、サポネットあおば本会（3回）、相談支援事業所等連絡会（10回）、実務者ネットワーク会議（2回）にも参加した。

（2）地域移行推進連絡会等への積極的な参画（計11回）

精神障害者の地域移行、地域定着を推進するため、医療、福祉、行政の各機関が連携し、課題等を共有しながら地域課題解決に向けた体制作りに取り組んだ。

また、長期入院患者等へのアプローチのため、実際に地域の支援者が病棟へ出向いての普及啓発活動や、看護師などの病棟スタッフの意識変革に向けた研修等を企画し取り組んだ。